



增補繪本寶鑑目錄

卷之二

一 神功皇后じんこうこうごう

三 朱隱士藏後しゆいんしぞうご

又 解脫粥げだつしゆく

七 天台石指てんたいいしさし

九 安倍仲磨あべのちゆうまろ

十 松垣女ひらきかきめ

二 紫式部むらさきしきぶ

四 莊宗得室しやうじゆとくしつ

六 韓明為かんめいみ

八 渾沌王こんとんわう

十 天武天皇てんむてんわう

十二 役小角やくせうかく

繪本寶鑑卷之二

十三 心戒

十二 周興嗣千字文

七 楠正成問答

十四 遺子安

十五 宥座器

十六 巴女

清補海舟寶經卷之二

一 神功皇后

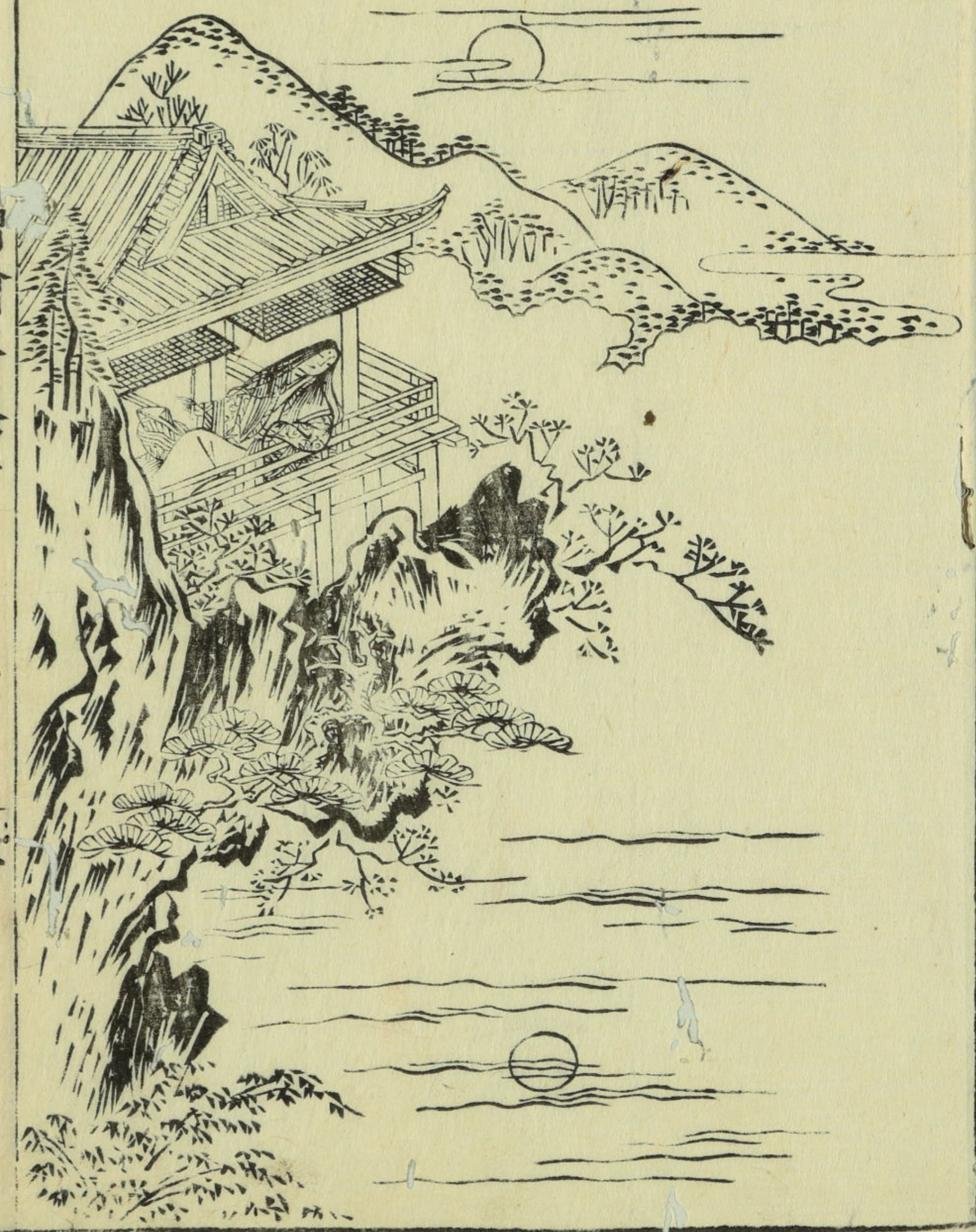
人王十又代神功皇后八開化天皇の尊孫
 氣長宿禰の娘あり皇后神託よほりて
 新羅と俄人と思ひし自奇誠と毎々法軍
 城下知し給ふ子任名明神出く御船とちり
 新羅の神ハ水神と云ふなり其母すては新
 羅へ着給へハ新羅王神告をりと思く拒みか
 ら次降来して奴と有り皇后の杖ははき給ふ
 新羅と新羅王の門よきく後世の事ゆと志
 所あり

繪巻本卷三



二 紫式部

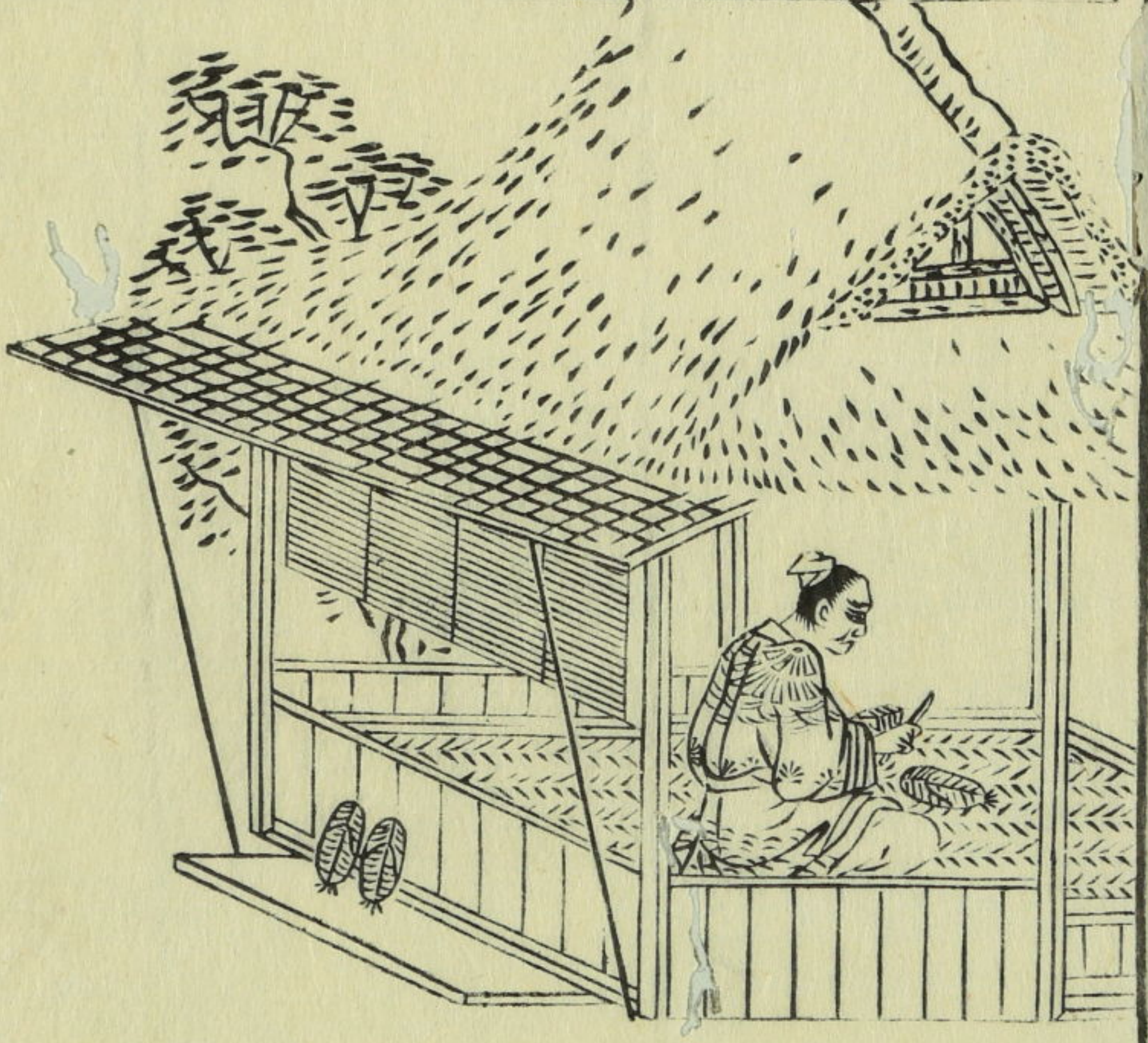
初修寺之經良門乃兼中納言兼輔之為
 孫越前守為時の女なり初より如知世よあり
 て和歌の道とてまのけ屋を我朝の文に教く
 うまのいひも海さじひ成あきつめよ東門院の
 宮ありありある時いつきのまより上常門院の方へ
 内使わたりて世よあづるお物成やゆりん所ひ
 と紀と作しきけきとやど式アとめりてもあ不竹
 とりあどのああうしと物成いおあれ所ふたれど
 新しき物成作りおと奉進つて侍者けれん式記
 石山寺よ務で親世あし起世あしと終取宮號



城島へて長らくりけり、頃ハ八月十日、東月、文子
 三、まき、うりて、湖、あま、うり、うり、一、式、ア、ハ、心、澄、ま、こ
 つ、暫、水、無、銀、よ、入、つ、忽、よ、自、他、智、と、悟、り、ゆ、え、と
 物、徳、乃、風、情、心、の、中、ま、う、ら、ひ、清、く、の、え、れ、さ、さ、ぬ
 目、あ、り、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 二、本、と、書、物、一、が、そ、ま、ま、う、り、清、く、よ、み、よ、る、清、く、の
 草、紙、と、あ、り、い、う、心、清、く、の、中、ま、う、ら、ひ、と、あ、り、け、り、え、
 を、清、く、よ、み、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 し、ら、う、く、
 三、朱、隠、士、織、信、儒
 蜀、郡、北、朱、桃、推、ハ、信、汝、安、為、少、て、塵、宇、沈、也、と

城島にて、長らくりけり、頃ハ八月十日、東月、文子
 三、まき、うりて、湖、あま、うり、うり、一、式、ア、ハ、心、澄、ま、こ
 つ、暫、水、無、銀、よ、入、つ、忽、よ、自、他、智、と、悟、り、ゆ、え、と
 物、徳、乃、風、情、心、の、中、ま、う、ら、ひ、清、く、の、え、れ、さ、さ、ぬ
 目、あ、り、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 二、本、と、書、物、一、が、そ、ま、ま、う、り、清、く、よ、み、よ、る、清、く、の
 草、紙、と、あ、り、い、う、心、清、く、の、中、ま、う、ら、ひ、と、あ、り、け、り、え、
 を、清、く、よ、み、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 し、ら、う、く、
 三、朱、隠、士、織、信、儒
 蜀、郡、北、朱、桃、推、ハ、信、汝、安、為、少、て、塵、宇、沈、也、と

城島にて、長らくりけり、頃ハ八月十日、東月、文子
 三、まき、うりて、湖、あま、うり、うり、一、式、ア、ハ、心、澄、ま、こ
 つ、暫、水、無、銀、よ、入、つ、忽、よ、自、他、智、と、悟、り、ゆ、え、と
 物、徳、乃、風、情、心、の、中、ま、う、ら、ひ、清、く、の、え、れ、さ、さ、ぬ
 目、あ、り、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 二、本、と、書、物、一、が、そ、ま、ま、う、り、清、く、よ、み、よ、る、清、く、の
 草、紙、と、あ、り、い、う、心、清、く、の、中、ま、う、ら、ひ、と、あ、り、け、り、え、
 を、清、く、よ、み、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 し、ら、う、く、
 三、朱、隠、士、織、信、儒
 蜀、郡、北、朱、桃、推、ハ、信、汝、安、為、少、て、塵、宇、沈、也、と



城島にて、長らくりけり、頃ハ八月十日、東月、文子
 三、まき、うりて、湖、あま、うり、うり、一、式、ア、ハ、心、澄、ま、こ
 つ、暫、水、無、銀、よ、入、つ、忽、よ、自、他、智、と、悟、り、ゆ、え、と
 物、徳、乃、風、情、心、の、中、ま、う、ら、ひ、清、く、の、え、れ、さ、さ、ぬ
 目、あ、り、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 二、本、と、書、物、一、が、そ、ま、ま、う、り、清、く、よ、み、よ、る、清、く、の
 草、紙、と、あ、り、い、う、心、清、く、の、中、ま、う、ら、ひ、と、あ、り、け、り、え、
 を、清、く、よ、み、よ、る、ら、う、く、ぞ、く、あ、り、な、ま、ぐ、清、く、と、明、る、の
 し、ら、う、く、
 三、朱、隠、士、織、信、儒
 蜀、郡、北、朱、桃、推、ハ、信、汝、安、為、少、て、塵、宇、沈、也、と

は文也 儒氏 誠て 是と 臨み 側より 垂く 心付き 是
 朱君 告乃 信あり とも 之を 懐柔し 易て 之を 導き
 貧人 如 赴と 人む 中 宿に 僧 臥して 書と 之を 士
 廉と 云人 毛と 車より 礼 教と 加 同車よ
 富と 信より 之を 之を 之を 之を 廉 毎
 慕 慶 馬の人 是と 之を 美 徳と 次

曰 莊宗 得 室
 唐の 莊宗 自 化
 存 獎 祥 師 子 詔
 て 曰 朕 中 原 と 収 て
 一 室 と 多 かり いま



人の 價と 酬わ 之と 獎曰 請に 陛下の 室と 看
 せし 帝 女 之と 之を 懐 戴の 脚 錦の 獎曰 君
 其 室 誰に 移て わる 之と 酬 せし

又 解脱 粥 籠
 解脱 福 師 文 殊
 に 印と 之を され
 て より 後 衆の 侍
 一 毎 且 子 粥 氏
 當し 文 殊 試よ
 前 子 觀 守 脫 破 之 文 殊
 と 脱 け 由 之 授 萬 子 と 之を 傳 ち 打 て 白 文 殊 八 自 ら



と 脱 け 由 之 授 萬 子 と 之を 傳 ち 打 て 白 文 殊 八 自 ら

之珠解脫ハハの

了 解脫と云て

又とらるる也

之 韓明為

鴛鴦

昔宋子太史あり

韓明と云ふ者

義とて國をこれあり 康王乞と奪ひ死す 韓明

怨とて身 康王太子怒とて乞捕て囚とて韓

明患然とて自死とて乞とて奪とて乞とて韓

妻又奪らり身とて授らるる乞とて夜と授らるる乞

妻ハ死とて希とて夫法いかり被てられハ死ハ我

尸と韓明子還て一とて奪とて王乞法韓明妻

とお臨むじ一夜の間に様々本塚の上と生て根

を下に交り繋ひ枝が上下相連なりとて根連りの

枝とて又とあり繋のどと 雌雄恒と様の本

を 結ふ約する也とて暫くを好むは南方の人

得くけ富ハ韓明夫婦が精魂の化してとあり

七 天名石信

神洲感通海日ゆつ帛道歌 天名石信

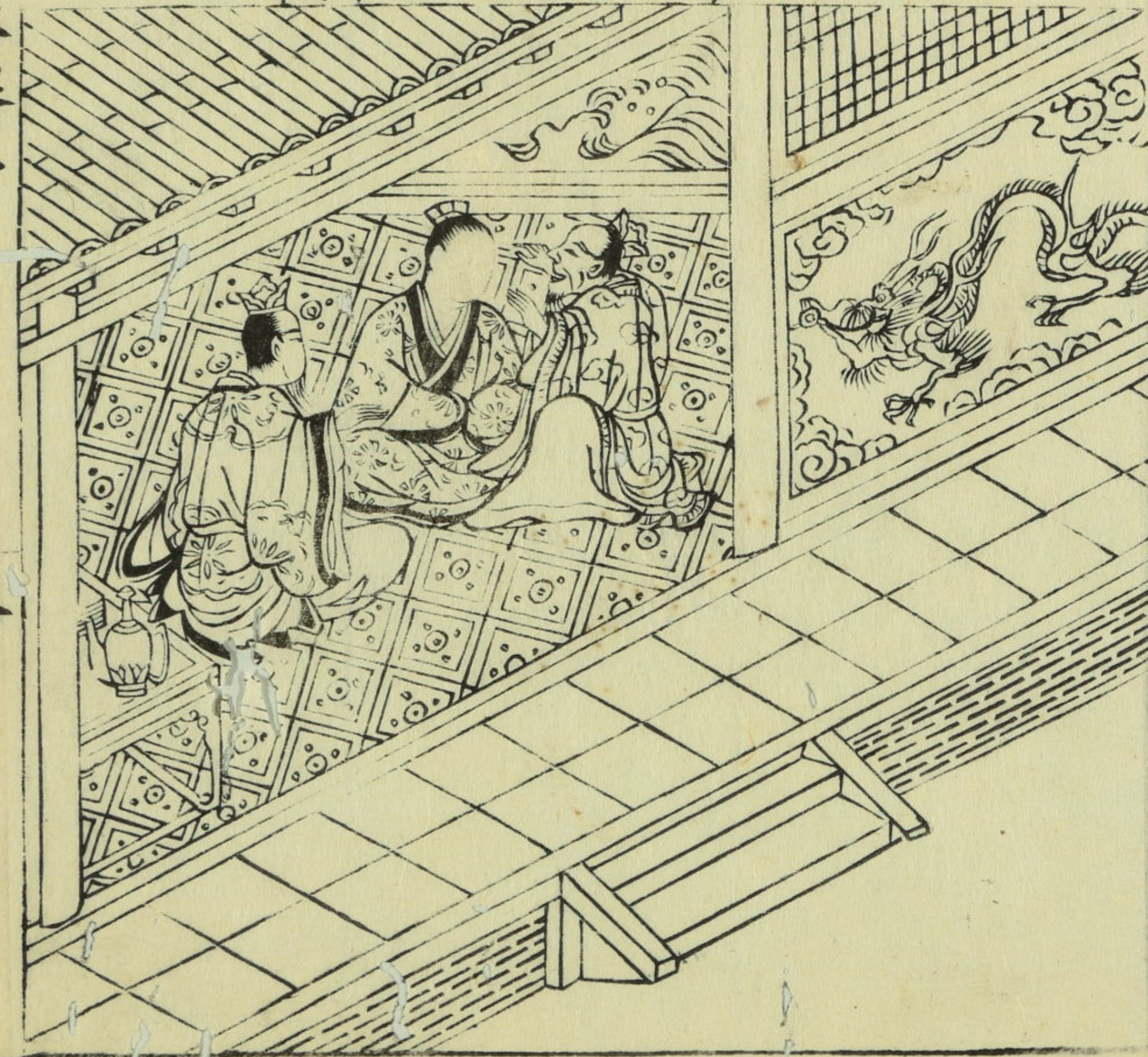
より度者おと弟とて乃憐慨日彼何人と新と相

且身操り 故に聖寺とて密爾とさひく討む
 千里ありて手く 遂に鑑と掲指せしはよる果よ
 趣く崖嶮とてさけけりきと周瞰てふとて方に
 其山と獲らり石梁一子北に聖寺も又多し將よ
 直に海人とありて虹梁乃に香よりけ真下よ
 望みあり身あり石橋上乃洞とて許に菴苔斜側ら
 東の色よりみき通舟の似ら西ハ大石の凝つり
 攀登よ路とてそり献すれら別よ田つと回て夜衆
 東よ宿とてはよ俣り寺の西聲の声は貝唱落とて
 剪意相送て通舟とて又人の声と聞よ此より
 却後十年すはく當よ此に來てはてしなく何と若



小形が事成河津人やと爾と久も息寸辰夕惋恨草
 と強て庵とる一年と淨々禪觀と後式日樂り
 造て身りりすれりら横石れ洞子用て梁道心平あり
 因て即度事とゆり遂に棟宇れ宏仕圖塔乃
 環奇る形とスる子神僧接叙して宛も素識子
 同一中食すて又沈て道猷て子將子棲之紀意と
 傳り子僧云却後十年子一て當子自此子到り一
 何そ早く位すり子方せんやと相送て横と度子
 横石すてにれものごとく子塞まり是世後子りる信
 乃故又文殊の淨去あり

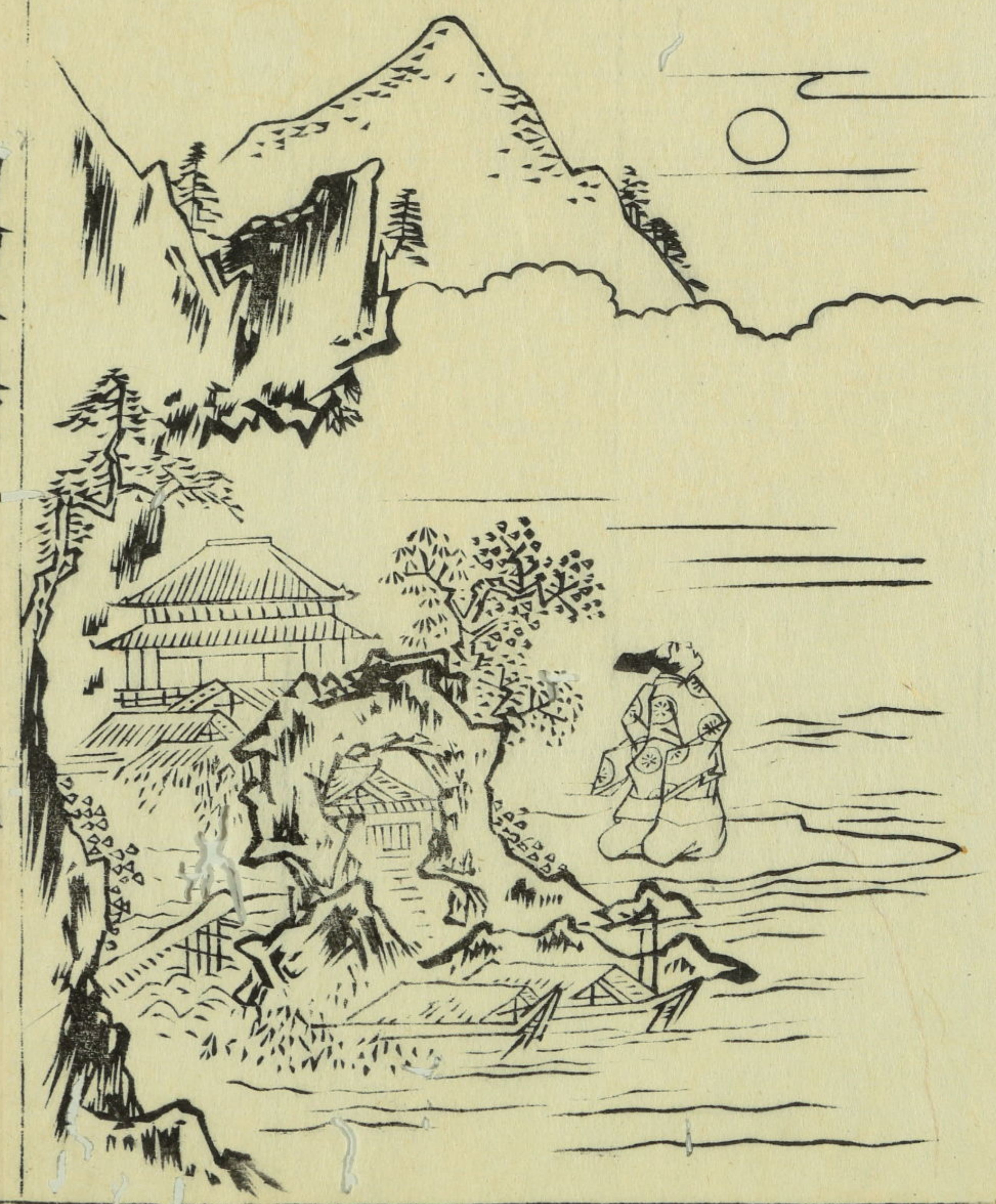
八 渾沌王
 茲よ三王有り
 南海の帝と儵
 と云北海の帝と
 忽と云中央の帝
 と渾沌と云て
 あり親南北れ
 王渾沌の地を行
 きけりよ是と待
 て甚と長一ニ
 王渾沌の徳と



都人と謀りよ人皆目鼻乃七竅とわりて視聽
とる次此獨りなり是以驚りて進せんとて日よ
一竅と驚りて七日あて渾沌死せり

九 安倍仲麻呂

昔仲麻呂唐よ物習りにつりしりけりよ教女年
と経て帰りしうでざりけりと此國より又使まはり
取りけりよそとひてまうて来る人として出てま
はる明州といふ處の海をこえて彼國の人馬れ儀
志より更にありて月のや、地面白く指おけるを
見んて 天に取振仰而見れば春白のゆき
乃ちよ出月といふと後とて人語り傳へり



十 天武天皇

天武天皇ハ人皇十代の帝也清見系の天皇
ミコトノオホナリノミコトミコトノオホナリノミコト



て信子即ゆふ白鳳六年神皇正統記の宮
あく筆といさゆば天女愛て天路をみまひ
舞乃神代ひまの光よりみ節の宿能をまれ

土 松原の女

松原の流の流と松原の宮の流の流は昔
流前乃太宰府の流松原の流の流の流
白柳子ゆふの流白河の流の流の流の流
此流の流の流と流の流の流の流の流の流
流の流の流の流の流の流の流の流の流の流
年ゆまば我馬髪も白河の流の流の流の流



新編本巻二

十

をよけつれとみーありともうはらじと戸は咄
 白濁乃水のよけつれとみーありともうはらじと戸は咄
 くらじとみーありともうはらじと戸は咄

十二 役小角

役小角ハ和列葛本芥系の人博覧ありて佛法
 と郷奴葛本山よ棲り三十九年藤葛と衣



松果と念と
 鬼神と役
 神通ありて母
 と携りて及
 一人あり

曹繪不家三

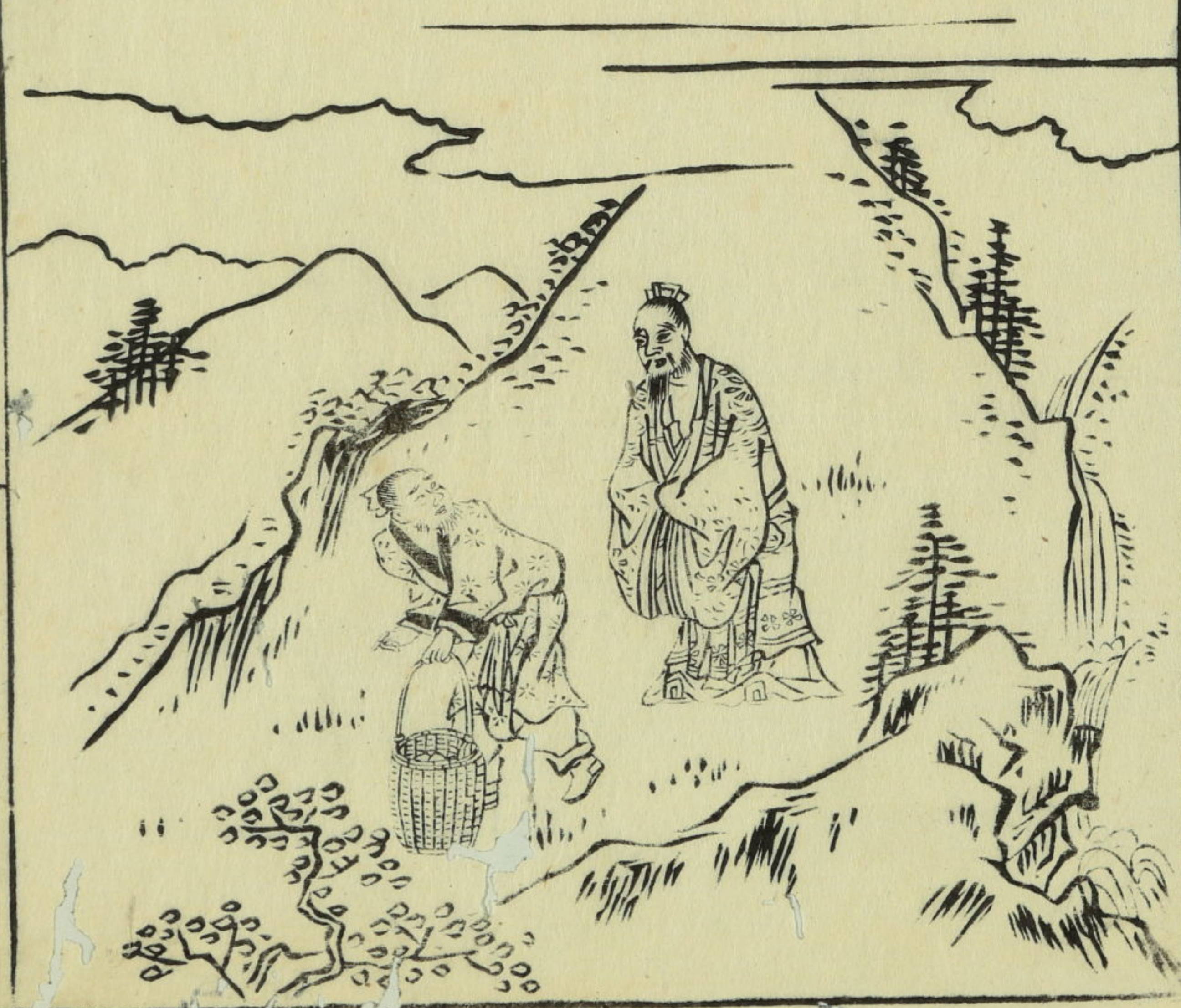
三心戒

戒俗の名ハ宗親仕年しねんノ世よト避ひ後ご事じノ入いレト
 降くだテ歸かへテ居ゐル起おこテ歩あキ一ひと路ぢ内うち家いえニ入いレ平日ひらひ蹲すま
 居ゐル或ある人ひと之の地ぢ人ひとト云いフ者ものテいいク三界さんがいノ中ちゆう安あん處ちよ
 十じゆ倍ばい之の方かた一ひとと云いフ



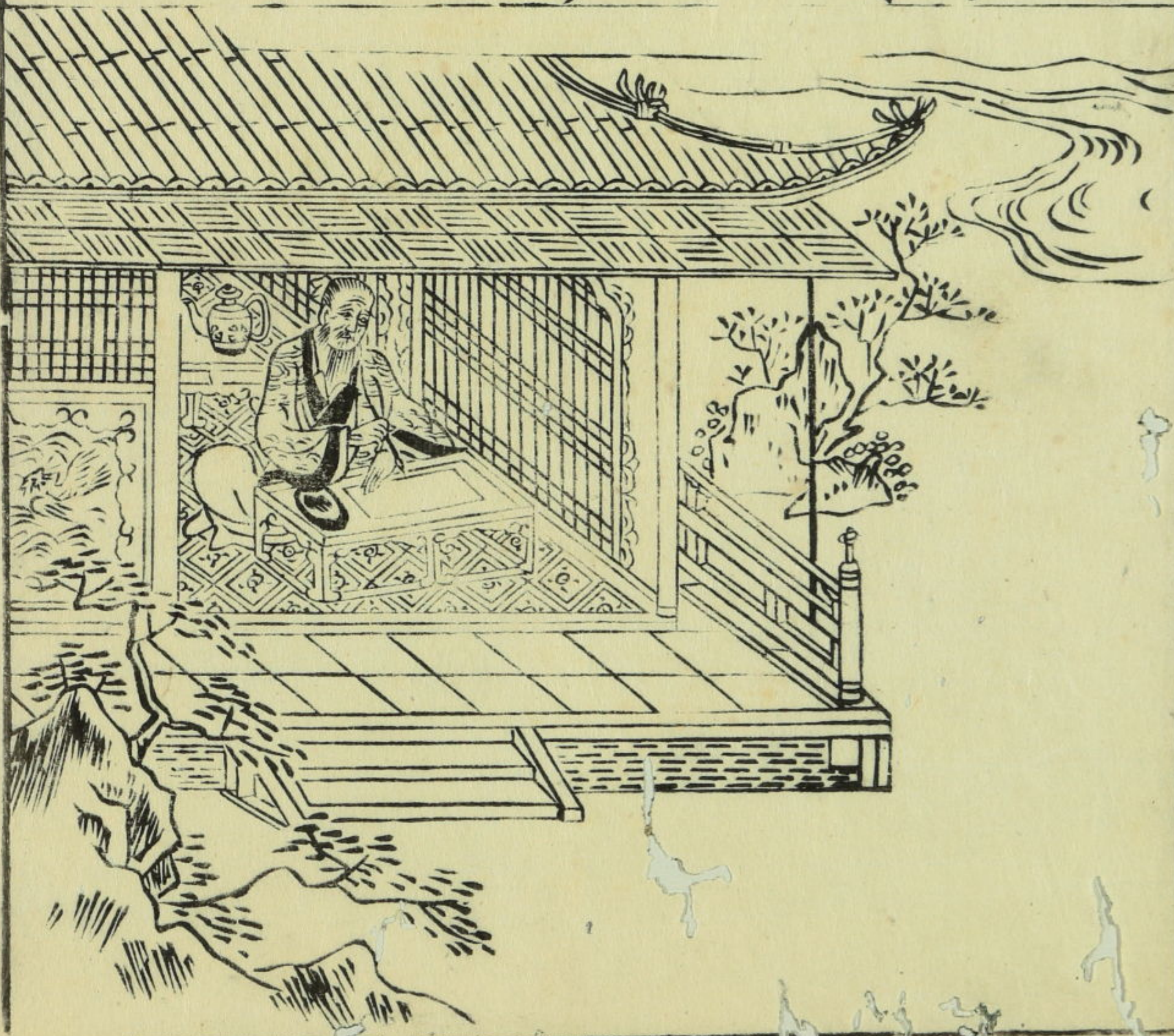
古遺子以安

龐わう公こうハ賢けん士しアリ劉りう
 表ひょう石せきモ亦また有あリ
 一ひと日いちにち鳩きう鶴かくハ林りんニ巢あリ
 魚ぎよ鼈べつハ池いけニ立たリ
 草くさ舎しゃハ人ひとノ業わざアリ
 各おのづか其の所ところヲ得えテ
 天下てんかハ我われ任まかズ
 一ひと云いフ表ひょう石せき白しろ子こ孫そんノ
 名なヲ遺いト云いフ龐わう公こう
 曰いハ危あやうト云いフ我われハ



安成書して云て述
其書子と併ひ
山子登つと樂と存
還く次

又 周興嗣千字文
梁武帝法王
と教子片紙一字
を書して習志む
後周興嗣命く
一篇とる志しるよ
一紙の同編綴て

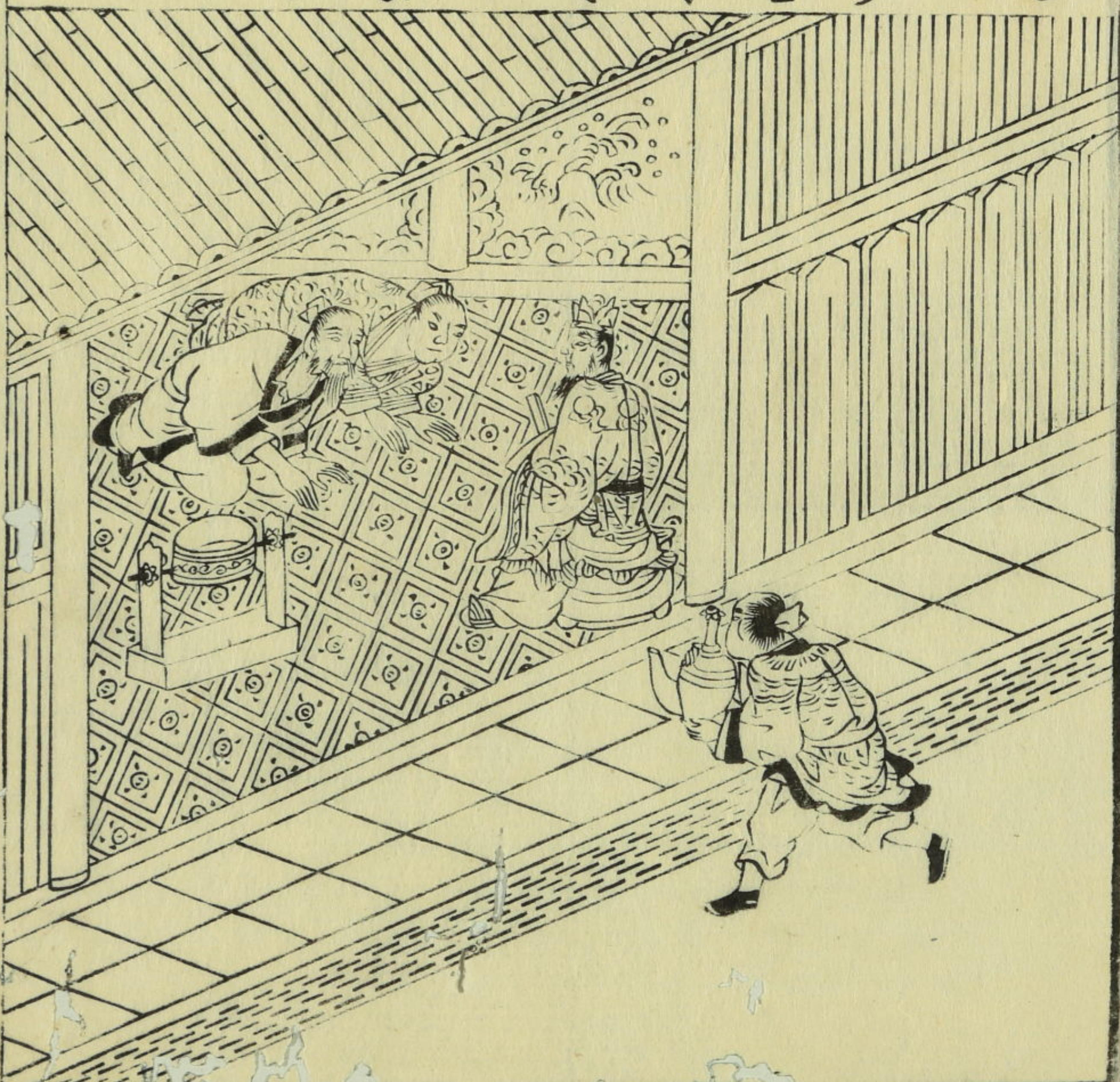


一千の文字あり是より中て
智永法師ハ義之孫と書法の妙極と傳千字
文八百部と書て何處の法寺に送り人ハ興く
習りて是千字又より中て書法本と伝あり
十六 宥座器

宥座器孔子魯の桓公の廟と名けり
宥座の者此とは何と云ふ
宥座の器ありと孔子の由り吾等字之を
宥座の器ありと孔子の由り吾等字之を
宥座の器ありと孔子の由り吾等字之を
宥座の器ありと孔子の由り吾等字之を
宥座の器ありと孔子の由り吾等字之を

水中にこれハ一海に霞久り孔子歎てのこまり
 史冊としてあるが海に霞くふ志ある人ぞ子路と
 り人進初くこそいふくあつて海うと紙おそるの
 所より中と妻子れ白されハ聰明睿知して是と
 よ悪くとりつて一切天下よくしつ是とちよ懐と
 一勇力世よ振つ是とちよ懐ととりて一富貴と有
 是とちよ懐とつてこの海つり今け四とあると
 みそれ易ハ道とつて貴人富貴を少て奪つて
 と男とあやめ多賤けつて偏とつてハ道とつて男
 二つあり一富と一賤とつて男ハ道とつて男
 とつて一むとつてハ富と一賤とつてハ富とつて

天命と業とい
 ちんくよやとつ
 たりとれハ富
 の悪くつとつ
 だハとつて
 とつとつて
 一是とつて
 ちんくよやとつ
 たりとれハ富
 の悪くつとつ



湖をくまよるまをそやくそく月乃十の

人の世中とりつるも甲のり人
走楠正成回善

正成河内守橋本正成軍務暇日得干南

都春自社次見平下信林申機履経行正成向

如何是道信云一條大路透長安進云如何是道

中人信云眼又東南心在西北進云如何是即信云

勇士阿我者即是勇士心者善勇士若而若心也

此心且三世縁万境而生其心天心玄妙歷く孤明けん

徳作悪けん好作善建是則入去執情是則出四生

進云け外文有密意也否信云公名什摩善云

正成信の声

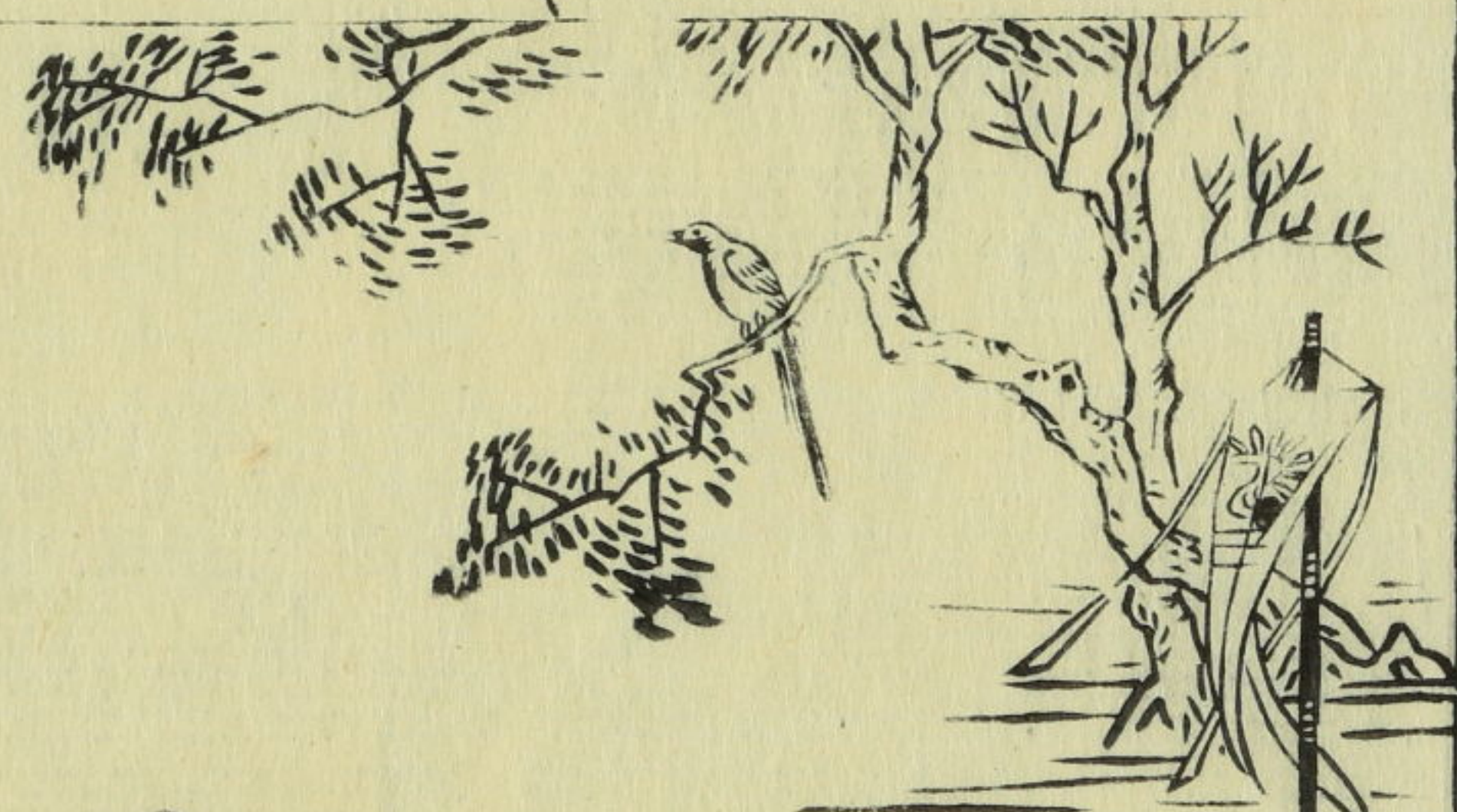
呼曰正成遠表

是什摩所在

正成控言下大

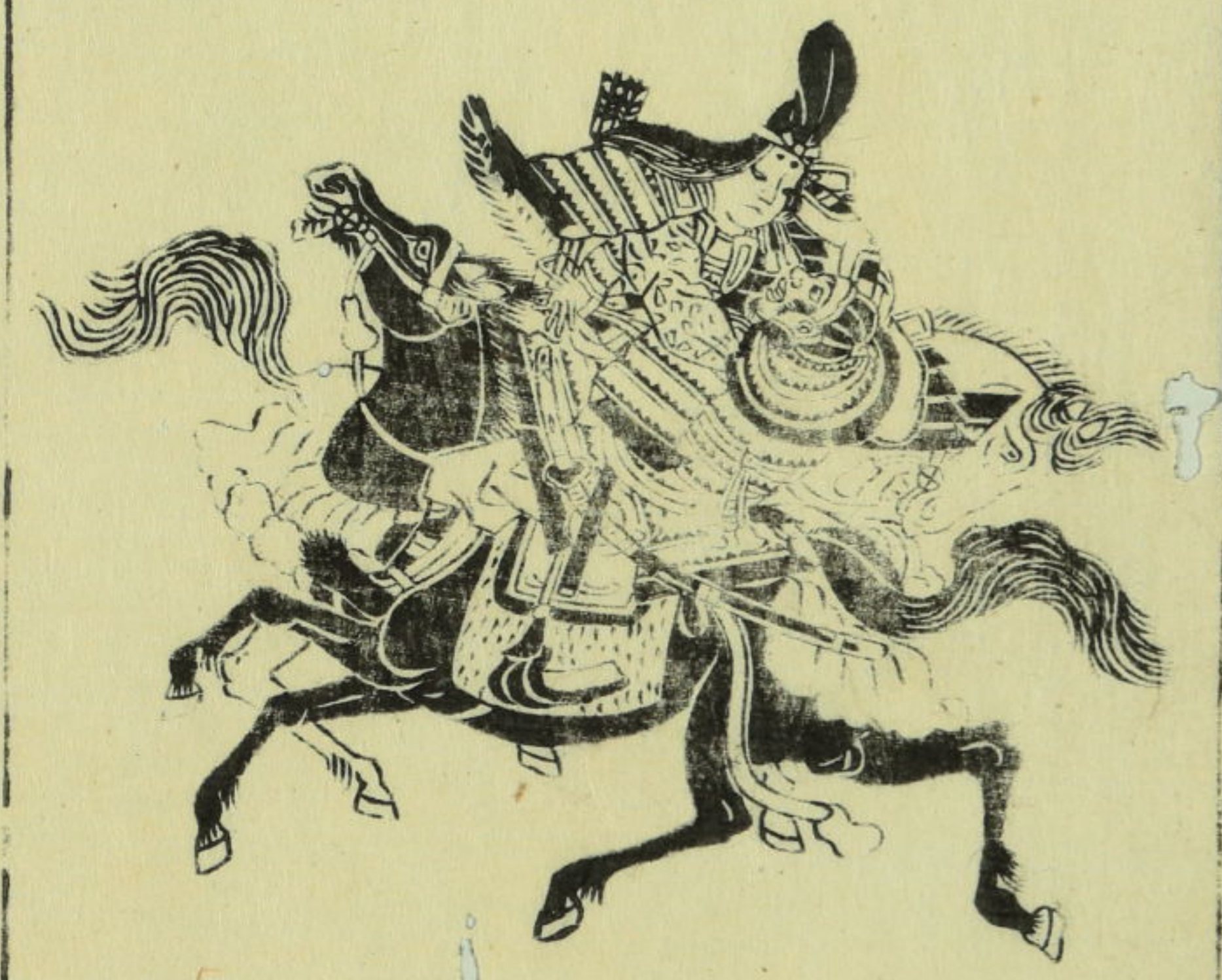
悟通身生汗

半語礼謝



十八 巴女

巴女ハ本曾乳母子
 中ニ權勢兼遠ガ
 娘ナリ内田ニ即家
 老ト馬トナリ従
 ヤトモ也あぢよ日本
 一ト聞くら本曾れ
 一ト里よ住くら者也
 我ト軍ノ所ト進めとて引て
 乃真顔取法テ鞍ノ花輪ニ攻付
 と入く首移り切く押くらけり



引て
 肘と
 甲
 甲

